



県営住宅

もっと住みやすく！

6月の定例県議会で高橋雅成議員は、もっと住みやすい県営住宅にするよう、県営住宅の管理の問題で県当局に要望しました。主なやり取りを掲載します。

質問① 身体障害や病気、高齢などで階段の昇り降りが困難になり、低層階に住み替える制度がある。しかし、自閉症の子どもが床を叩き、下の階の住民に迷惑がかかるため、本人家族も大変恐縮し、住み替えを希望しているなどの例がある。これは住替え制度の対象になっていない。対象をもっと拡大すべきだ。

質問② 入居者の高齢化などにより、共益費を徴収する人の確保が困難になっている。共益費の滞納が起らないような仕組みをさまざまな面から検討していただきたい。

質問③ 先日、知人から「県営住宅にいる知り合いを訪ねたが、新聞が三日分たまっており、心配だ」と電話があった。早速、救急車を出勤してもらい、さらに警察、レスキュー隊が到着した。レスキュー隊が部屋に入ると、この部屋の老婦人が倒れていた。管理人、県庁、県住宅供給公社のだれも合鍵を持っていないのが現状。県営住宅における孤独死の防止策が必要と考えるがどうか。

答弁① 住替えについては加齢、病気により階段の昇降に支障を来している方を登録し、あっせんしているが、今回のような特殊なケースも個々に判断し対応する。

答弁② 共益費は団地運営上、非常に大切。県として徴収方法などについて県内各団地の実態、各県の取り組み状況などを調査していく。

答弁③ 平日、夜間休日の緊急修繕のための連絡体制があり、入居者の緊急時にも同体制を活用できるよう検討する。緊急時に入室するためのカギについては、プライバシー保護などの問題があるが、どんな方法が有効か検討していく。

浴槽設置の負担を軽減

浴槽・風呂釜がない昭和56年以前の県営住宅では、これまで入居者に設置をお願いしていましたが、公明党の主張で、前の入居者が設置していた浴槽を県が修繕・点検して新規入居者に利用してもらうよう改善されました。



参院選 比例区

こば健太郎氏が大勝利

7月29日に投開票された参院選で、公明党の木庭健太郎氏は、比例区で全国第2位の得票数となる70万6993票を獲得し、当選しました。全国では、選挙区で東京、大阪で2議席、比例区で7議席の合計

9議席を獲得。公明党は30日に声明を発表し、全国の党员・支持者、とりわけ猛暑の中、血のにじむような支援を頂いた創価学会員の皆様に心から感謝申し上げるとともに、「次は必ず勝つ」と捲土重来を期しています。

予算特別委員会

母子家庭の支援策で質疑

高橋議員は、平成19年度会計の予算特別委員会で、母子家庭への県の支援策について質問しました。同議員は、国が来年4月から児童扶養手当を現行の2分の1を超えない範囲で減額する方針であることなどを踏まえ、母



子家庭への生活支援策と母親への就業支援策の充実を要望しました。また、県の保健福祉部と生活労働部の連携の強化と機構改革を図るよう促しました。

これに対し麻生知事らは、生活支援策と就

業支援策は車の両輪であり、福祉と労働局の連携を強化し母子家庭の支援を充実させたいなどと答えました。

発達支援クラスを視察

八女市の西日本短大付属高校

公明党福岡県議団は、八女市の西日本短大付属高校を訪れ、同校の発達障害の生徒のための「発達支援クラス」を視察しました(写真)。自閉症やADHDなど発達障害がある高校生への教育の充実を決意していました。

